

1. 開会
2. 局長挨拶
3. 議事 (1)「平成 25 年度 神戸市水道事業主要施策等」について
議事 (2)「平成 25 年度 神戸市下水道事業主要施策等」について

質疑応答

(委員)

水道局では「大容量送水管の整備」に「断層用鋼管」を採用しているということだが、どのあたりの地域にこの「断層用鋼管」を採用した整備がされているのか。また、その進み具合はどの程度なのか。

(水道局)

大容量送水管の断層用鋼管については、異人館の少し西側にある諏訪山公園で整備している。そこにある断層を横断するので採用した。現時点で既に設置済みである。

(委員)

水道局では競争性の導入を進めているということだが、業務を民間企業が行った結果、市民から苦情が出るなど、問題が起こったりしていないか。

(水道局)

水道メーターの検針業務については、従前は水道サービス公社に委託していたが、競争性を導入し、民間企業も参加している。現時点で、大きく変わってしまった等の苦情は寄せられていない。

(委員)

水道事業の人件費について、当初予算と比べても減っているようだが、要因は何か。

(水道局)

昨年度、国に準じた形で9か月間、給与削減をした。また、事務事業を見直し、職員数を26名減員したことも要因である。

(委員)

すると、人件費については、今後はあまり減らないということか？

(水道局)

先ほど話に出たが、水道サービス公社がやっていたメーター検針業務について競争性を導入したように、神戸市水道局が行っている業務についてもやり方を工夫していく中で、人件費の見直しに努めていきたい。

(委員)

(資料2の) P.11、「浸水に強いまちづくり」について、目標に向け整備していると思うが、ゲリラ豪雨にはある程度対応できるのか。

(建設局)

下水道事業では、10年に1回の確率で降る雨を基準として整備を進めている。神戸市の場合、雨水幹線ではポンプ場の流域面積の関係で、約10分から15分くらいの間にはどの程度の強さの雨が降るか、ということが下水道整備のキーとなっている。最近、1時間換算という言葉がよく言われるが、1時間換算では100mm程度の降雨に対して整備を行っている。最近1時間に60mm、70mmの降雨という報道があるが、その程度の降雨であれば、対応できることになっている。

また、資料に、「雨水整備重点地区」や「雨水ポンプ場」とあるが、市内一律に同じスピードで整備を進めているわけではない。限りある財源を有効に活用するということで、市内でも低く浸水の恐れの高いところ、さらに実際に浸水被害が生じているところに対して、優先的に整備を進めている。したがって、10年前に三宮地区で大規模な浸水が発生したが、その辺りの浸水対策を10年かけて行い、平成27年の梅雨時期には雨水ポンプ場が稼働する予定である。

(委員)

前から議論になっていることだが、資料2のP.7を見ると、処理水量の推移自体が雨水との関係で非常に大きくなっているのが明らかである。基本的には、雨水処理は税で負担すべき性質のもので、利用者の料金で回収することが理屈に合わないことは、前からの議論である。有収水量自体は下がっているが、処理水量が増加傾向にある。それにもかかわらず、今年度の一般会計の補助金はなぜ下がるのか、疑問である。負担の公平性から、利用者が負担すべき性質のものなのか、税で負担すべき性質のものなのか、やはりもう一度整理する必要があるのではないか。

(建設局)

資料2のP.5の収益の欄、上から3行目に、例えば平成25年度決算の下水道使用料は192.8億円、その下に一般会計からの補助金で21.5億円が計上されている。雨水のポンプ場の経費などがここに計上されており、今、委員からお話があった、汚水にも雨の影響があるのではないかと、すなわち、それは汚水の使用者が負担すべきなのか、一般会計が負担すべきなのかという点については、今のところ汚水に入ってくる不明水、雨水の費用は、一般会計からは負担されていない。したがって、この件は、以前から審議会でもいろいろと議論いただいているので、我々としても引き続き議論させていただきたいと考えている。

(委員)

資料2のP.7を見ても雨水と処理水量の関係は明らかである。それに伴って、物件費に相当のものが入ってきており、負担の公平性を前提に考えていくなれば、雨水の処理にか

かる負担を利用者に課すというのはおかしいので、ある程度の公平性の担保という観点から、速やかに是正されるようお願いする。

(建設局)

利用者の負担の公平性の点で、雨水がどこから入ってくるかという点も1つの議論であり、水道やガスなどは、宅地の中の個人の施設で漏れると、市民の方はそれぞれ水道局やガス会社に電話して復旧・補修工事を行う。ところが、宅地内の汚水柵にひびが入っていてそこから地下水や雨水が入った場合は、市民にダイレクトに影響を及ぼすことが少ない。そのため市民の方々が、下水道施設の損傷に気づかれないところも1つの課題である。その辺りから入ってくる雨水と、道路の下の下水管やマンホールの穴などから入ってくる雨水、この割合をかつてから何対何というようなことも検討させていただいている。したがって、これらについて十分調査して、ご議論させていただきたいと考えている。

議事 (3) 専門部会 (次期「神戸水道ビジョン」検討委員会) の審議状況について

質疑応答

(委員)

「水源のあり方」について意見を述べたい。地球温暖化、渇水などについて検討がなされており、概ね時流に合っていると考える。原因はともかく、少なくとも日本は確実に温暖化していきっており、今後、積雪水量が大幅に減ることが予想される。一方、琵琶湖の水量は、かなりの割合で積雪量に依存しているという科学的知見がある。したがって、阪神水道企業団に全面的に依存することは非常にリスクが高い。その旨、ビジョンの中に入れていただきたい。

(水道局)

ご指摘いただいた地球温暖化の話は、専門部会でも資料を出して、議論していただいた。私どもとしても、水源を一か所に頼らず、複数に分散させる「水源の分散化」が大切だと考えている。そのことを念頭におきながらビジョン作成にあたりたい。

(委員)

ここにあるボトルドウォーター「神戸の水だより」を飲ませていただいたが、非常においしい。しかし、神戸市の中心街に来る観光客との話で、よく出てくるのは「神戸ビーフ」である。「神戸ウォーター」の話は出ない。このペットボトルのラベルの文章を見ると、布引の水を使っている、とあるが、布引の貯水池についてはどのように考えているか。

(水道局)

布引貯水池のあり方については専門部会でもいろいろなご意見を承った。このボトルドウォーターは布引の水だけで作っている。通常、布引の水は、阪神水道企業団の水とブレンドしてお送りしている。先ほどの話でも出たが、水源の多様化が重要と考えており、布引も貴重な水源である。

もともと、布引の水は船舶に使っていた。神戸を出港し、赤道を超えても腐らないという事で、有名であったということである。過去のそういったお話も念頭に置きながら、どのようにするか、さらに議論して方向性を決めていきたいと考えている。

(委員)

現在、神戸市の観光の分野では神戸ビーフばかりが目立っている。いろいろな方から「神戸は神戸ビーフだけか」という話が出ている。水道局に何とか頑張ってもらって、「神戸ウォーター」を神戸の観光に組み入れてもらうよう、努力されたらいいのではないかと。

(水道局)

「神戸ウォーター」は、神戸が誇るブランドの一つであるし、布引という地名の響きも含めて、大事にしていきたいと考えている。ただ、このボトルドウォーターは生産単価が高い。一般に売られているミネラルウォーターは、ほぼ無人の大きな工場で、地下水をくみ上げて、ほとんど処理せずに大量に流通経路にのせている。役所では同じようにはできないので、販売は民間に任せたい。われわれとしては、布引の水というブランドを大事にして、PRという形で今後ともやっていこうと考えている。

(委員)

外国人の観光客に、直接、こういうボトルドウォーターが、これは神戸では有名なものです、という形で手に渡るような方法はないだろうか。商店街連合会では、4年位前から外国のクルーズ船を誘致している。乗船客の半分くらいは大阪や京都に行くが、残り半分は神戸市内を観光する。だいたい新港第四突堤に入港するので、そこから大丸神戸店までのシャトルバスを出し、通訳や学生を配置して、外国人観光客に神戸を案内している。そういう機会をとらえて、直接、この神戸ウォーターを配るとか、そういうことはできないだろうか。

(会長)

非常に貴重な意見だと思う。赤道を越えても水が腐らないという話は、一般の人は知らないだろう。私も知らなかった。広く周知できるよう、ぜひやっていただきたい。

(委員)

私は仕事の関係で外国へ出張することが多いが、外国ではいわゆるセレブと言われていの方々を中心に、エコ・コンシャスという、地球にあまり負担をかけない生き方をしようという考え方が高まっている。神戸ウォーターのように、水道水を飲むことを推奨する、水道水でもおいしいということであれば、非常にアピール力があると思う。特に、クルーズに乗って来られるような、いわゆる富裕層の方々はそういったことに敏感に反応される。ぜひ、進めていただければと思う。

(水道局)

水道水はおいしい、ということのPRについて、いろいろなイベントで、市販されてい

るミネラルウォーターと神戸の水道水との飲み比べをしているが、ほとんどの場合、勝負がつかないという結果になる。神戸の水道水は、阪神水道企業団の水も含め、昔とは違っておいしくなっている。冷やせばさらにおいしい。あらためて、市民の皆様、また外国人観光客にもPRに努めていきたい。

(委員)

先ほどの「水源の分散化」とは、具体的にどのようなことを指しているのか？

(水道局)

神戸市の水源についてご説明する。まず、3/4が琵琶湖・淀川水系、つまり阪神水道企業団に頼っている。次に4%ほどが県営水道ということで、三田、三木の方の水源に頼っている。残りの20%ほどが自己水源である。その大半は北区にある千苺で、それ以外が先ほども話に出ていた布引と、烏原、合計3つのダムを持っている。さらに、住吉の方では河川の水を膜ろ過して水道水に使っている。六甲山でも河川から水をとっている。

現在、水の使用量が減ってきているので、水源を廃止していくという事も考えられるが、自己水源を活用しながら、阪神水道企業団に頼っている割合をどのような形で再配置するかということを議論している。これが「水源の多様化」ということである。現在あるものを増やすということではなくて、いかに分散しながら活用するかということを検討している。

(委員)

水源を廃止すると、コスト的にはどのように変化していくのか？

(水道局)

コストの話は難しい。現在、阪神水道企業団から買っている水の単価が62円で、かなり安い。しかし、東の方から西まで水を送るので、途中、ポンプで圧送しなければならず、その際電気代がかかる。現在持っている水源の中で、必要な水量をいかにして電気代をかけないよう、ベストミックスな形でお配りするのかという事を考えて、阪神水道からの水量を決めている。

これから人口が減ってきて、各地域の偏在状況が変わってくると、再度考え直さなくてはならない。その際、最も近い所から効率よく水を送ることが一番いいのだが、一方、少量の水を浄水するのは、費用対効果はかなり悪くなる。そういったこと含め、全体を見ながら、判断していきたい。

(参与)

先月、垂水区で、上水道の管が壊れて、修理しますというお知らせをいただいた。管が壊れてから直すのは非常にコストがかかると思う。日本中で言われていることだが、多くの管が上水で20年くらい、下水で25年くらいに耐用年数を超えるということだ。本市も同じように、もうしばらくすれば多くの管の耐用年数がくると思う。ファシリティマネジメントということで、いろいろな取り組みをされていると思うが、ピークがくる頃に

一斉に取り組むと、工事の負担も大変だし、お金もたくさんかかり、非効率である。そこで、先がけてやってくださいとお願いしているところだ。スピードアップしてくださいとお願いしたら、確か、特別委員会だったと思うが、2倍のスピードにしますと答えていた。こういうお話はなかなか市民のみなさんには伝わっていないと思う。

水道も下水道も企業会計なので、収支均衡は当然なのだが、黒字でないとダメ、という思いを持たれているようだ。しかし、公営企業なのだし、赤字になっても構わないのではないか。将来に向けて管を新しく取り替えていけば減価償却費などが増え、赤字になるのは当然なのだし、それでもいいのではないだろうか。

非効率な工事を避け、工事に係る人的資源のことなどもあるし、中長期的な計画性をもった更新が必要だ。そのような事を是非、専門部会で取り上げて、議論していただきたい。

(水道局)

水道事業、下水道事業とも企業会計であり、収支均衡が原則で、それに向けて一生懸命やっているという事は事実である。一方、長期的な目で見れば、非常に厳しい現実があるというのもまた事実である。その中で、ピークカットして、平準化してやっていくということも大切だし、いろいろな形で改善を行って、効率的な事業執行を進めていくという事もまた大切である。「赤字を出しても」ということについては、いろいろな意見があるだろうが、他都市に目を向けると、最近是一般財源を入れているというところも散見される。今回の専門部会では、50年、100年先の将来を見据えた今後10年間の方向性について議論している。今おっしゃったようなところについても、議論に加え、責任をもった体制を組んで事業が実施できるよう、ご意見を賜っていきたいと考えている。